

平成23年度個別施策ヒアリング資料(優先度判定)【経済産業省】

施策番号	27111	施策名		使用済燃料再処理事業高度化補助金			
新規／継続	継続	領域	グリーン・イノベーション	国際的位置付け	上位	AP施策	
競争的資金		e-Rad	○	社会還元			
施策の目的及び概要	再処理施設で用いられるガラス固化技術について、より高品質なガラス固化体を製造可能なガラス固化技術を開発し、日本原燃六ヶ所再処理工場のガラス固化施設に反映する。						
達成目標及び達成期限	六ヶ所再処理工場のより安定した運転、ひいては我が国の核燃料サイクルの安定性向上に寄与する。						
研究開発目標及び達成期限	より多くの白金族元素を含む高レベル廃液を溶融可能なガラス及び溶融炉等を開発する。						
23年度の研究開発目標	平成23年度は ・新型ガラス溶融炉の政策、据付 ・新型ガラス及び溶融炉を用いた実証試験等を実施する。						
施策の重要性	ガラス固化技術の高度化により、再処理施設の安定運転が確かなものとなり、ウラン、プルトニウムを準国産エネルギーとして利用する我が国の核燃料サイクルの確立に寄与するものであり、十分な効果が期待できる。また、ガラス固化体の品質の向上によって、固化体の処分に係る安全性の向上に資することができる。						
実施体制	・研究開発主体は、公募により日本原燃株式会社に決定。 ・実施にあたっては、研究課題を整理しその分野ごとに大学、研究機関に委託すると共に研究機関の間にて情報共有や意見交換を行う場を設け研究内容・結果の集約、包括的な評価などを実施している。 ・また、経済産業省技術評価指針に基づき外部有識者による研究開発評価を実施することとしている。						
H22予算額(百万円)				H23概算要求額(百万円)			
1,796				2,450			
独立行政法人名(運営費交付金施策のみ)				—			
H23概算要求額の内訳	人件費:107 試験費:4,772 諸経費:21 事業費合計:4,900 補助率:1/2 補助金額:2,450 —						
期間	H21～H23			資金投入規模(億円)		58	
これまでの成果(継続のみ)	平成21年度は、低粘性流体発生メカニズム等を踏まえたガラス素材の検討、新型ガラス溶融炉の構成技術の検討、炉底部構造のモックアップ試験等により、新型ガラス溶融炉の設計に反映するための技術的成果が得られた。						
社会情勢・技術の変化(継続の)	現在アクティブ試験中の六ヶ所再処理工場のガラス固化技術は原子力機構が開発した我が国独自の技術である。当該技術は高レベル放射性廃液中の白金族元素が炉底部に堆積し安定運転を妨げるといった技術上の課題が存在することから、5年						

み)	程度で計画されている溶融炉の更新までにはこれら技術的課題の克服が不可欠である		
昨年度優先度判定 (継続のみ)	着実	優先度判定時の指摘への対応(継続のみ)	・事業の進捗について定期的に報告をうけているとともに、事業者が設置する外部有識者によるガラス固化技術研究評価委員会への出席や研究開発現場の視察等を実施して、研究開発の状況把握に努めていくとともに、経済産業省技術評価指針に基づき外部有識者による研究開発評価を実施する。 ・また、研究テーマ毎に研究機関をチーム分けし研究機関間の情報の共有、意見交換、研究内容・結果の集約、包括的な評価などを実施している。あわせて、経済産業省技術評価指針に基づき外部有識者による研究開発評価を実施することとしている。
国民との科学・技術対話推進への対応(対象施策のみ)	—		